日本原水協活動交流ニュース

発行：原水爆禁止日本協議会　電話：03（5842）6031　2021 年
FAX：03（5842）6033　E メール：antiatom55@hotmail.com　5 月 10 日

第 13 回アジア・ヨーロッパ人民フォーラム

戦争犠牲者と大量破壊兵器被害者との連帯
オープンスペース

日時 **5 月 18 日（火）15:00-16:30**

参加をご希望の方は件名に
「0518 参加希望」とご記入の上、
antiatom55@hotmail.com
にメールをお送りください。
こちらで登録します。

1945 年の広島・長崎の大虐殺以来、人類は常に核戦争への恐怖と不安の中で生きてきました。アメリカのベトナム戦争（1955 年～1975 年）では、枯葉剤、特にエージェント・オレンジを使った化学戦争が行われました。これは歴史上最大、最長、そして最も悲惨な化学戦争です。この戦争は、他の種類の大量破壊兵器と比較して、人間だけでなく自然に対しても、最も長期で広範囲にわたる深刻な深い後遺を残しました。

ベトナムの人々や環境に深刻な被害を与えただけでなく、戦争に参加したアメリカ兵と他国の兵士の命や健康にも影響を与え、環境にも多大な影響を与えました。

2020 年は、アメリカが日本の広島と長崎に原爆を投下してから 75 年目にあたります。また、今年はベトナムにおける枯葉剤被害（1961 年 8 月 10 日～2021 年 8 月 10 日）が始まってから 60 周年を迎えます。

COVID-19 パンデミックは、人類に悲惨な影響を与える可能性のある生物兵器戦争に対して国家と国際的な安全保障の脆弱性を浮き彫りにしました。このような状況下では、戦争犠牲者や生存者の闘いや、大量破壊兵器の使用をなくすための努力をより強化する必要があります。

アジアヨーロッパ人民フォーラム総会で、原水協、VAVA（ベトナム枯葉剤被害者協会）、ベトナム平和委員会は、「戦争犠牲者と大量破壊兵器被害者」をテーマにしたオープンスペースを開催します。人々に戦争、特に核兵器と枯葉剤を含む大量破壊兵器が人間に与えた影響を知らせ、犠牲者へのより強い連帯と支援、そしてこれらの兵器の研究、開発、貯蔵、使用を止めさせるための共同の努力を呼びかけます。

プログラム:

開会のあいさつ・導入
- 核兵器についてのビデオ上映
- 枯葉剤／ダイオキシンについてのビデオ上映
- 枯葉剤被害者：ヴォン・ティ・クエン
- 被爆者：児玉三智子
- 質疑応答／討論 45 分
- まとめ

日英同時通訳付き：参加費無料

発言者プロフィール

児玉三智子（日本原水爆被害者団体協議会 事務局次長）

1938 年広島市に生まれ、7 歳時に被爆。1985 年に地元千葉県市川市で原爆被爆者の会理事に就任して以来、被爆者運動に打ち込む。現在千葉県被団協会長で、2010 年から日本被団協事務局次長。2005 年、2010 年、2015 年の NPT 再検討会議に参加。多くの市民に被爆体験を証言し核兵器廃絶を訴えてきた。

ヴォン・ティ・クエン

32 歳。枯葉剤被害者で教師。枯葉剤／ダイオキシン被害者社会保護センター所属。